

《担当者名》松岡紘史

【概要】

臨床心理学は、さまざまな問題の理解と解決に心理的要因が大きく関与していると思われる個人を心理学的な立場から理解し、問題解決を図ろうとする学問である。臨床心理学を支える理論にはさまざまなものがあるが、近年は認知行動的な立場から問題を理解し解決を図る行動理論に基づく考え方が主流となっている。本講義では、臨床心理学の基本的な考え方を学ぶとともに、行動理論による問題の理解と解決方法を理解しながら、最新の臨床心理学の進歩について学ぶ。

【学修目標】

一般目標

患者の心身両面に配慮できる医療人となるために、臨床心理学の重要性とその実践方法について理解する。

行動目標

1. 医療の中での臨床心理学の必要性について説明できる。
2. 代表的な臨床心理学的アセスメントの方法について説明できる。
3. 代表的な心理療法について説明できる。
4. 行動理論の代表的な基礎理論を説明できる。
5. 行動理論の代表的なアプローチを説明できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|-------------------|---|------|
| 1 | 臨床心理学とは | 臨床心理学で対象となる問題行動や不適応症状を学習するとともに、どのような領域で臨床心理学が利用されているかを理解する。 | 松岡紘史 |
| 2 | アセスメント | 臨床心理学で用いられるアセスメントについて理解する。 | 松岡紘史 |
| 3 | 臨床心理学の諸理論 | 臨床心理学を代表する、精神力動的理論、人間性心理学について学び、それぞれの理論的立場の異同について理解する。 | 松岡紘史 |
| 4 | 行動理論：学習理論 | 行動理論の基盤となる学習心理学の基礎理論とその臨床応用について理解する。 | 松岡紘史 |
| 5 | 行動理論：機能分析 | 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、問題行動の理解の仕方の一つである機能分析を理解する。 | 松岡紘史 |
| 6 | 行動理論：行動のコントロール | 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、行動のコントロールに関するアプローチを理解する。 | 松岡紘史 |
| 7 | 行動理論：認知のコントロール | 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、認知のコントロールに関するアプローチを理解する。 | 松岡紘史 |
| 8 | 行動理論：気分・感情のコントロール | 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、気分・感情のコントロールに関するアプローチを理解する。 | 松岡紘史 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末試験（70%）、小テスト（30%）を総合して評価する。
小テストは解答および結果についてフィードバックを行う。

【教科書】

指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】

内山 靖 他 編 「リハベーシック 心理・臨床心理学」 医歯薬出版株式会社 2020年
日本認知・行動療法学会 編 「認知行動療法事典」 丸善出版 2019年
鈴木伸一 他 著 「実践家のための認知行動療法テクニックガイド」 北大路書房 2005年

【学修の準備】

毎回講義の最初に前回講義内容の小テストを実施するため、配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解すること。(80分)

参考書を中心に、次回の講義内容を予習すること。(80分)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP3) 作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

臨床心理士

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床心理学の実戦経験を講義におりまぜながら、臨床心理学を用いた患者理解・対応について講義を行う。